

# 自転車利用実態定点調査報告

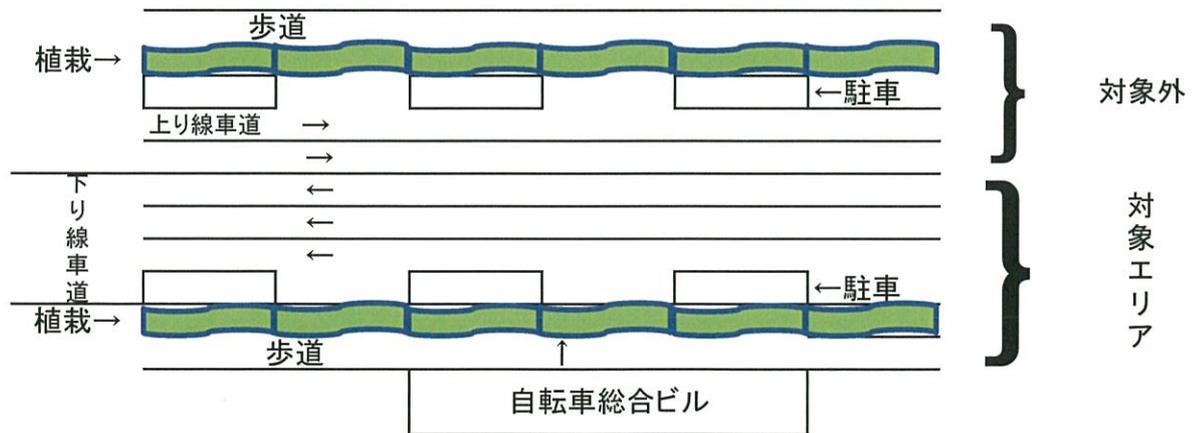
平成26年8月

(一財)日本自転車普及協会

**調査目的** 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

**調査日時** 平成26年7月7日～31日  
[午前]9:00～10:00、[午後]13:30～14:30

**調査場所** ・ 自転車総合ビル前（目黒駅方面に50m程緩い下り坂）  
**概要** ・ 調査対象(車道線:目黒通り下り3車線[内側1車線駐車帯])  
(歩道:幅員5m・植栽1.5m～2mのため、実質通行幅3m～3.5m)  
・ 調査対象外(車道線:目黒通り上り2車線[内側1車線駐車帯]及び上り歩道)



**調査事項** 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査



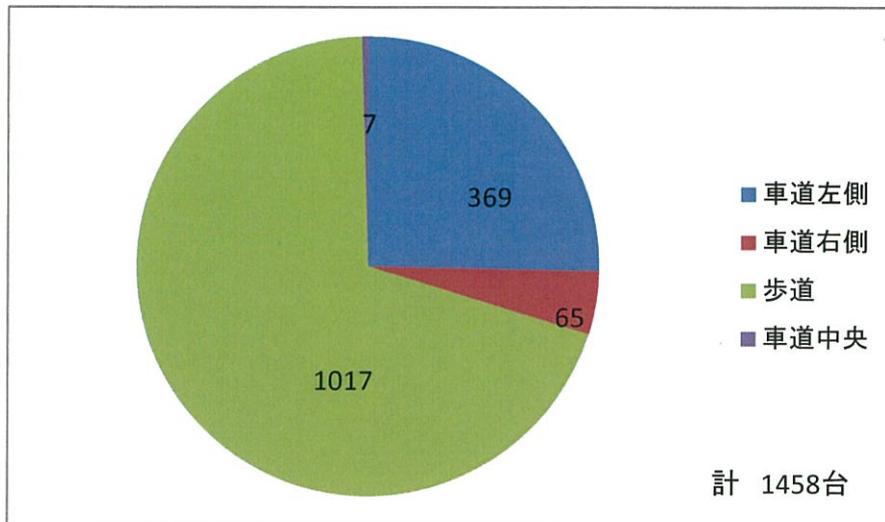
危険運転行為は、平成 25 年との比較では、歩道上でのスピードの出しすぎが、同様に上位だが、過重積載は、下位となっている。また、片手運転は、上位と反転している。

平成 24 年との比較でも、歩道上でのスピードの出しすぎが、上位だが、携帯電話を使用しながらの運転では、下位となっている。

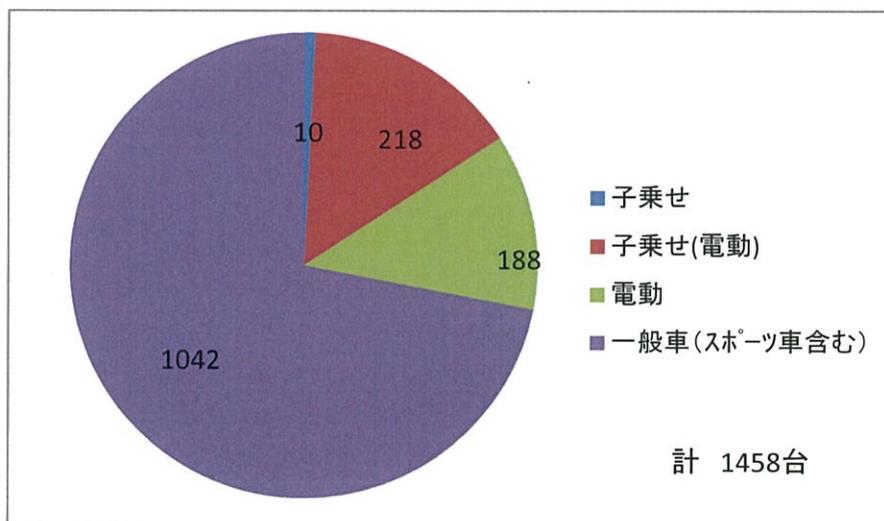
共にスピードの出しすぎが、上位だが、それ以外は、調査地点が、25 年は、目黒地域住宅街(秋から冬)・24 年は、赤坂ビジネス街による要因も考慮される。

また、その他の危険運転行為として今回、肩に荷物掛けが、多数あったが、荷物の位置がずれ修正するために体のバランスを崩すと事故を起こしかねないため、体に固定(リュック等にする)するか、籠を装備する必要がある。

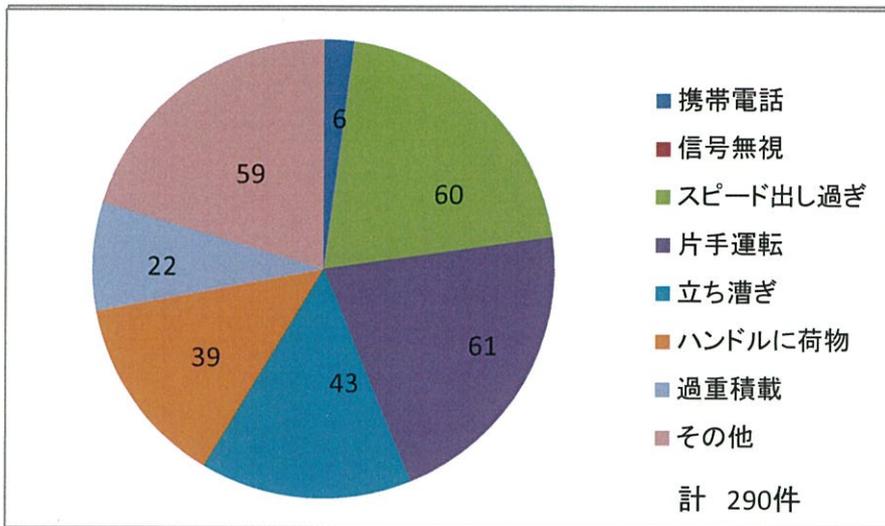
さらに少数であるが、今回、片足スタンド固定や犬連れ運転が見受けられたが、場合によっては、重大な事故を導きかねないため、他の危険運転行為も含め、時間や各種状況等の制約の関係があるかもしれないが、極力、慎むべき問題である。



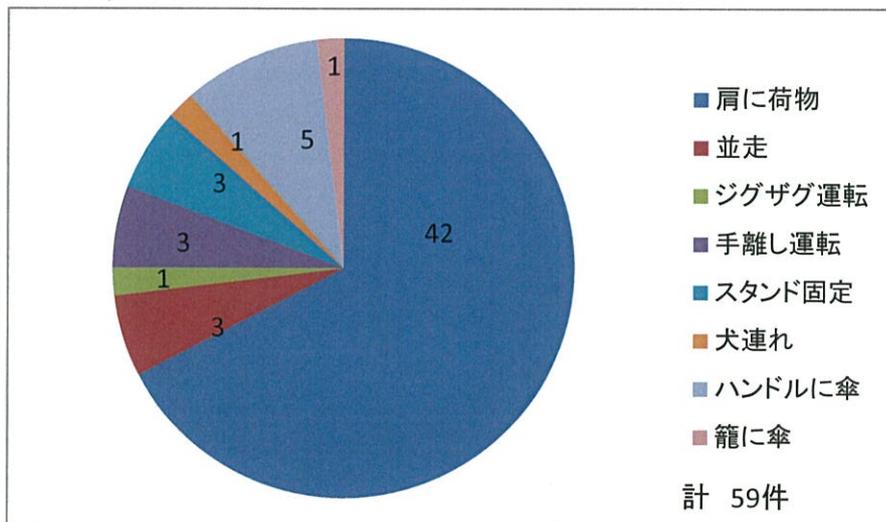
走行空間



車種



危険運転行為



その他の危険運転行為内訳